

中学生ボランティア新聞 ふろく 地域とのつながりを感じて

先生方へ
やまびこだより
No.137
今号の特集から

*本紙の特集事例をよりくわしく解説！あわせてご活用ください。

子どもたちの視点から考える都市計画を



松本市デザイン戦略支援アドバイザー
倉澤 聡さん
清水中学校 OB (平成3年度卒業)

清水中の卒業生である倉澤さんは、都市計画の視点から地元松本をもっと知ってもらいたいと、子どもたちも参加するさまざまなまちづくり事業に携わっています。

子どもたちにいろんな興味をもつきっかけを

20数年前に私が清水中に在籍していた頃、「女鳥羽川清掃」は鎌を使って草を刈る作業だったと記憶しています。当時はまだ「ボランティア」という言葉も知らず、そんな意識もなく、なんとなく地域の活動をするのは当たり前という気がしていました。子どもにとって川は遊び場であり、みんなの生活の舞台という愛着もありましたしね。

今もこうした活動がグレードアップして続いていることに感銘を受けます。活動の中でもっといろんな人と話したり、興味をもつきっかけが増えれば、さらに刺激になるかなと思います。まちに刺激があると、中学生の視野も絶対に広がっていくはずですから。

子どもたちと地域の人がつながっていくのは、都市計画の視点からも大切なキーポイントです。

私も仲間と一緒に子どもたちが参加するまち歩きやワークショップを行っています。今年は女鳥羽川をテーマに

まちづくり講座を始めました。世代の違う人たちがそれぞれの視点で楽しみながら地域を知り、自分たちの未来を考えることができると、もっと面白いまちになります。

世代を越えたまち歩きのすすめ

まち歩きをすると、地域のいろんな人と出会います。すると、地域の人と顔見知りになり、何かあったら声を掛けたり、相談したりという関係がだんだん広がっていく。そうすれば、地域が子どもを見守り、災害などのいざというときにもお互い助け合える関係ができる。それが、自然なまちの風景、地域のインフラとして普通になる。それとともに、子どもたちも自分の人生を将来どうしたいのかを重ねて考えていけるといいですね。

そんな仕掛けづくりをこれからも考えていきたいので、中学生の皆さんにもぜひ参加してもらいたいと思います。



OBの倉澤さんと語るう生徒会の皆さん

お世話になります。

地域は先生の宝庫！

長野県が進める「信州型コミュニティスクール」に先駆けて、松本市では、公民館が中心となって学校サポート（学校応援団）事業を基盤とした活動を「松本版・信州型コミュニティスクール」として導入しています。

清水中学校でも、第三地区公民館や東部公民館関係者と学校評議員を運営委員として平成26年から「清流コミュニティスクール」を発足。これまで行ってきた地域とつながる活動を継続・恒例化させ、右記のような活動を行っていく予定です。



伝統の七夕びなを制作



「立志式」



地元消防団の方々との防災訓練

「立志式」はかつての「元服」にあたる儀式で、14歳（2年生）になって一人の大人として「志」を立て、大人になる自覚を深めます。清水中学校では、保護者を招き、自分の漢字を一つ決めて発表。地域の茶道の先生に教えてもらい、点てたお茶をふるまいます。美術の時間に自分たちで作った器を使います。

学校が助かる、地域が助かる活動

1 総合的な学習の時間（清流の時間）

- ① 地域の人とともに作る活動
 - ・花壇造園作業・松本七夕人形作り
 - ・おやき作り・やしうま作り

② 地域の人に学ぶ活動

- ・農業体験学習・松本一本ねぎの栽培・職場体験学習

③ 地域に役立つ活動

- ・全校奉仕活動（女鳥羽川・薄川・公園・道路の清掃、児童館・デイサービスの清掃及び交流）

2 伝統文化事業

- ① 和楽器演奏（箏）学習の実施（音楽の授業）
- ② 茶道、抹茶体験（立志式）

3 地域講師招聘事業

- ① 習字指導（国語の授業）
- ② 裁縫指導（家庭科）
- ③ 写生会指導（美術）
- ④ 放課後補習

4 地域スポーツ人材活用実践支援事業（部活動）

5 食育・ものづくり事業（技術・家庭科の授業）

- ① 百年椅子づくり
 - 釘を使わない環境に優しいものづくりの活動
- ② お弁当プロジェクト
 - 自分で弁当を作り「食」について学ぶ取り組み

6 学年行事へのインストラクター派遣事業

- ① 上高地キャンプでの自然観察学習（1学年）
- ② 常念岳登山での自然観察学習（2学年）

協力：松本市立清水中学校、倉澤聡さん

発行日：平成27年9月20日 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 地域福祉部 ボランティア振興グループ
〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130
E-mail vceneter@nsyakyo.or.jp URL http://www.nsyakyo.or.jp/

35年以上続く伝統の女鳥羽川清掃 「全校奉仕活動」から地域をみつめ直す 松本市立清水中学校の活動から



事例の概要

誇れる伝統の始まり

今から35年前の1980年(昭和55年)、松本市立清水中学校の生徒会で、「地域に貢献できる活動をしたい。せっかくならお金を集めるのではなく、自分たちの力でできることをしよう」という声があがりました。

学校の近くを流れる女鳥羽川は子どもたちにとっても格好の遊び場でした。川にゴミが散乱していることに気づいた生徒が親しみのある地域の川をきれいにするのどうかと提案。まだ「ボランティア」という言葉は一般的でなく、「奉仕活動」と呼んで、生徒会を中心とする女鳥羽川の清掃は始まりました。

全校参加による活動へ発展

第1回は、その頃土曜日が午前授業だったため、午後の時間を利用し、全校3分の1の有志生徒が活動に参加。皆で鎌を使って大きく伸びた草を刈った

り、ゴミ拾いをしたりしました。翌年の第2回から参加者は次第に増えていき、そこで生徒会では、全校参加の活動を目指すことにしました。

「奉仕活動なのだから、強制してやるものではない。やる気のない人までやる意味はあるのかな」といった声も出ましたが、1988年(昭和63年)に「全校奉仕活動」として全員参加となりました。

当時、全校で奉仕活動に取り組んでいる学校は少なく、「女鳥羽川を守る会」から表彰され、地元でも評判の活動として注目されます。10年目の1990年(平成2年)には「女鳥羽川をきれいにする会」から、翌年には「長野県治水同盟」から河川功労者の表彰もされました。

伝統の活動となった女鳥羽川清掃でしたが、2003年(平成15年)、草刈りのアレルギー症状対策もあり、他の奉仕活動を組み入れて、公園や薄川の清掃、近隣の福祉施設との交流へと活動は広がりを見せていきました。

ボランティアも振り返りが大切

現在、「全校奉仕活動」は「地域に役立つ活動」として総合的な学習の時間に行われており、「地域に生きる自分の役割を感じるきっかけになっている」と小川竹雄教頭先生は語ります。

2012年(平成24年)開催の「福祉教育のつどい」(長野県社協・長野市社協共催)では、学習院大学教授の長沼豊氏が次のような指摘をしています。「小中学校で地域のゴミ拾いをやらされて、ボランティアが嫌いになってしまう人が多い。そこで、「役に立ったのだ」という実感を持たずいぶん違う。それを確認させてあげる振り返り学習が非常に大事です」。

清水中学校の生徒たちは日々、活動を始めた先輩たちの思いと伝統を誇りとして受け継ぎ、地域に貢献していることを感じてきたからこそ、35年以上もこの活動が続いてきたのではないのでしょうか。



